

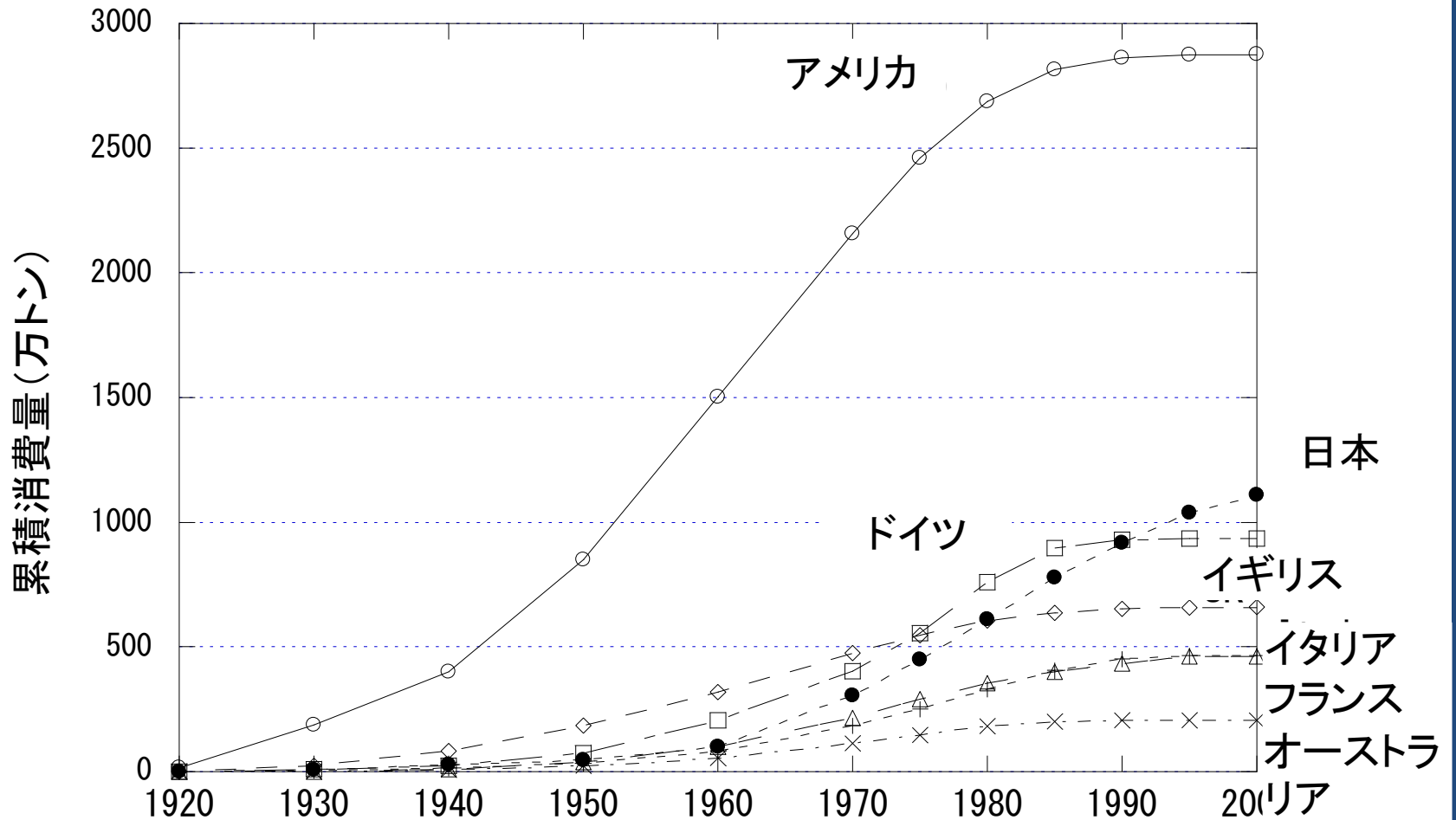
解体等工事における石綿飛散防止対策に係る
リスクコミュニケーション・フォーラム
2017.2.17

石綿飛散防止対策に係る リスクコミュニケーションの 重要性

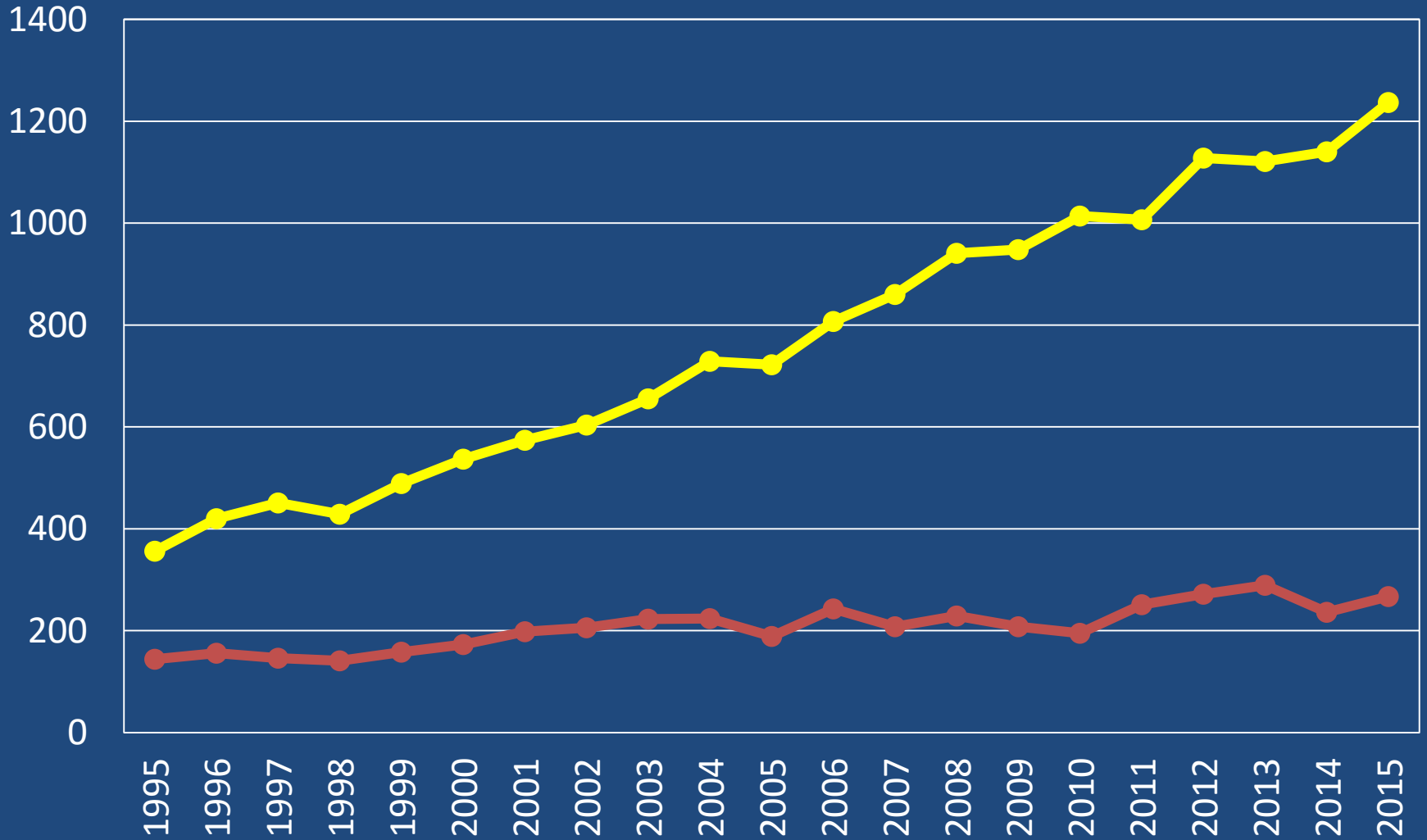
村山武彦
東京工業大学
環境・社会理工学院

アスベストの使用とその影響

主要国の累積使用量の推移

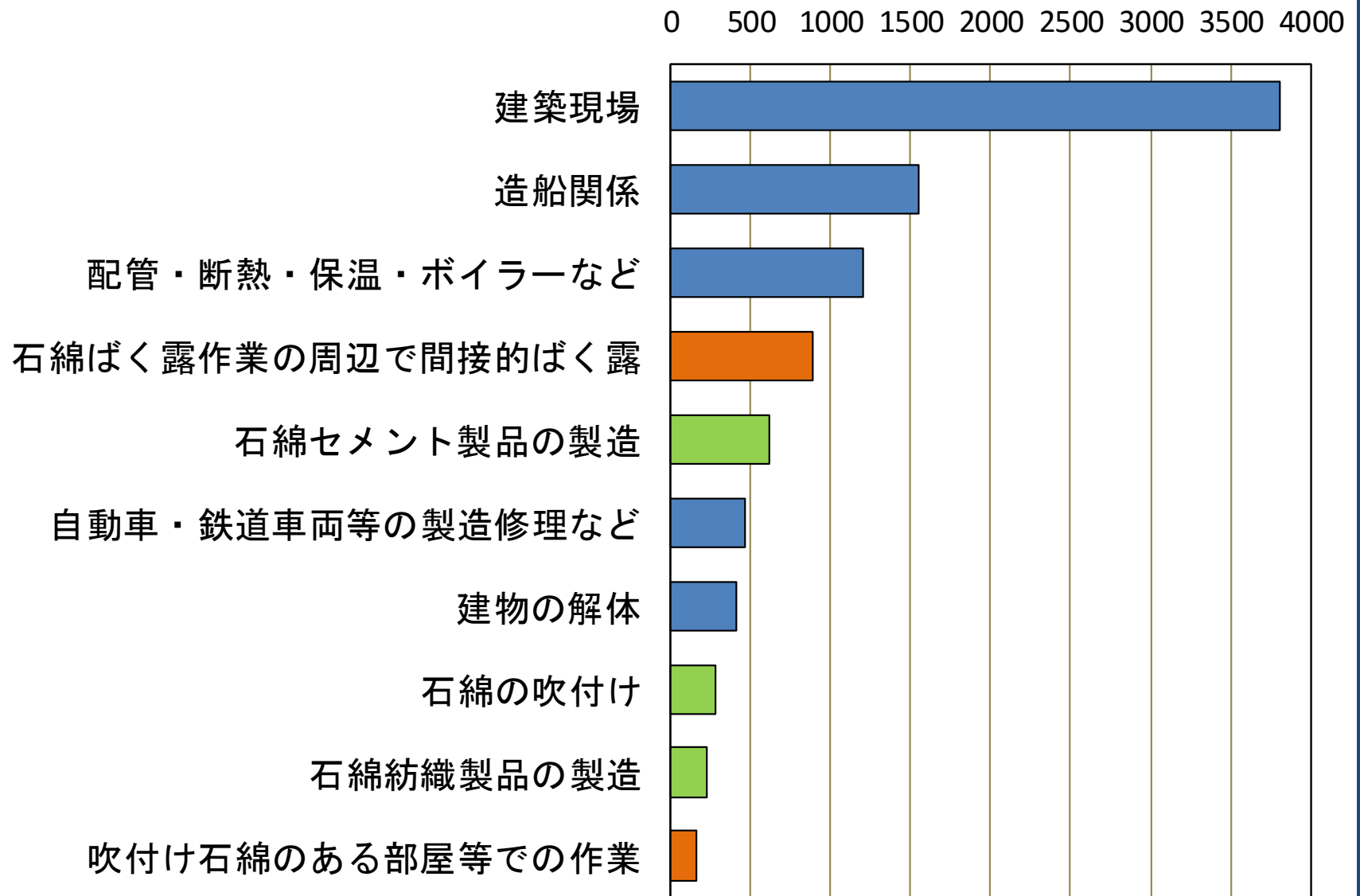


● 男性 ● 女性



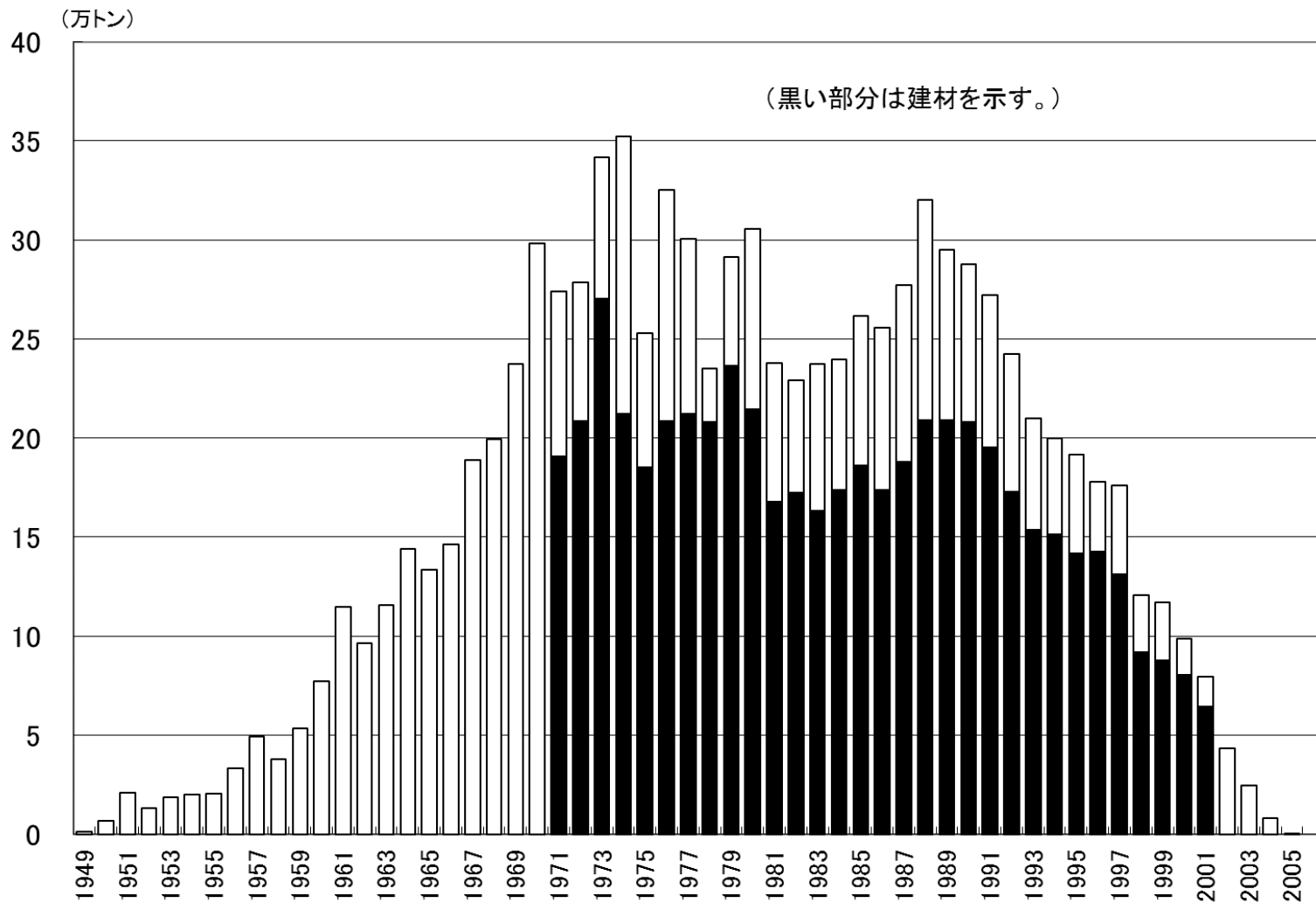
中皮腫による死亡者数の推移
(人口動態統計より作成)

労災補償において認定が多い作業の例



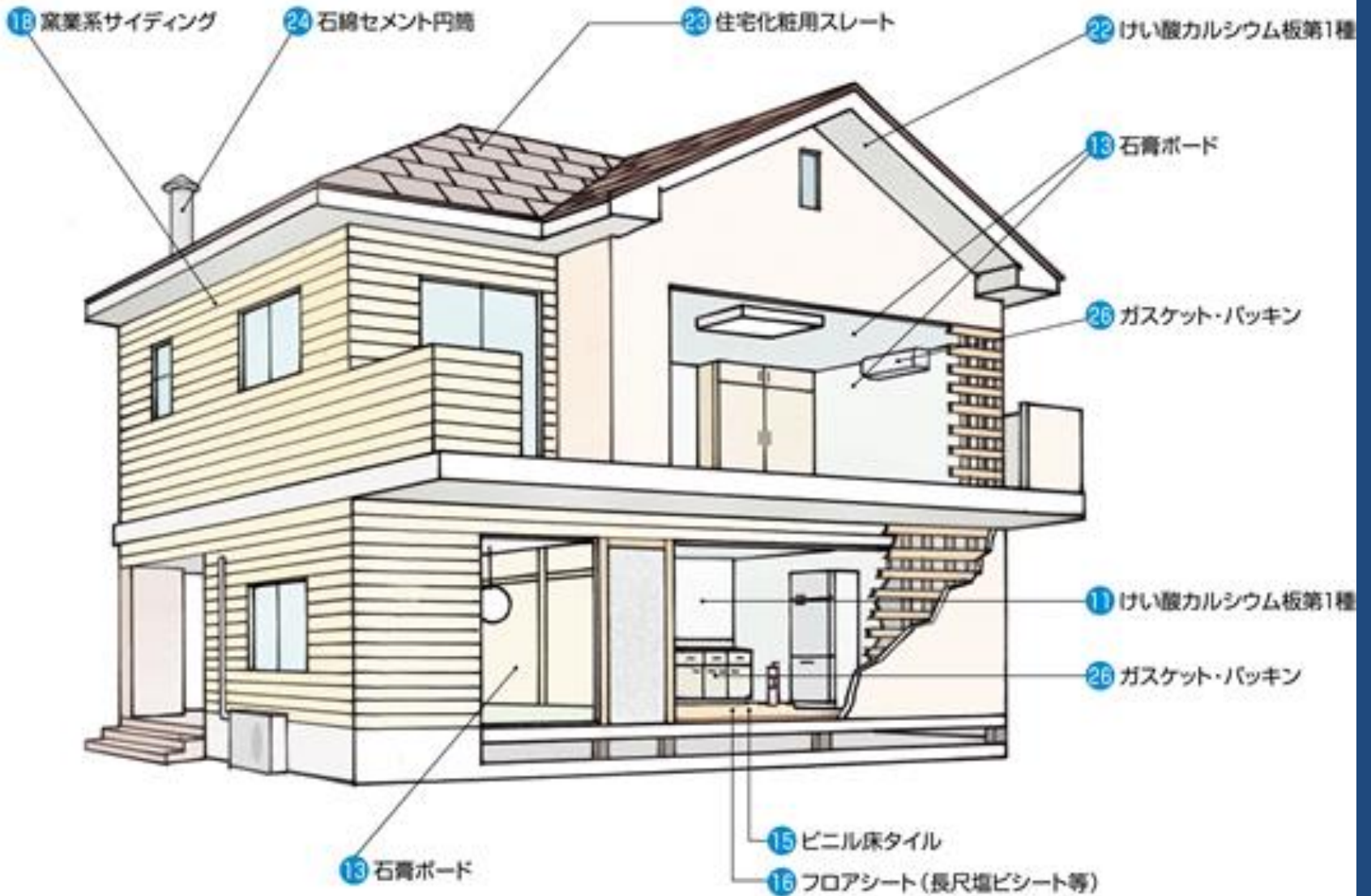
(厚生労働省「石綿ばく露作業による労災認定等事業場一覧表」(H27年度分まで)より作成)

日本の消費量と建材への使用



注:①輸入量は日本石綿協会HPによる(輸入統計と若干の集計修正を加えたもの)
②使用量は同協会「石綿含有建築材料廃棄物量の予測量調査結果報告書」による

<戸建て住宅>



住宅におけるアスベスト使用

民間建築物の年度別解体棟数(推計)



<国土交通省 社会資本整備審議会建築分科会アスベスト対策部会資料>

(対象建築物は、0.1重量%以上のアスベストを含む可能性のある民間建築物)

解体によるアスベスト除去における コミュニケーションの必要性

- 一般住民に身近な環境での作業
- 作業現場と周辺地区との情報格差
(アスベストの存在の確認と除去対策の内容が現場に限定される傾向)
- 作業が短期であることから、問題が発覚した時点で既に作業が終了している場合が多いこと

リスクコミュニケーションをめぐる いくつかの視点

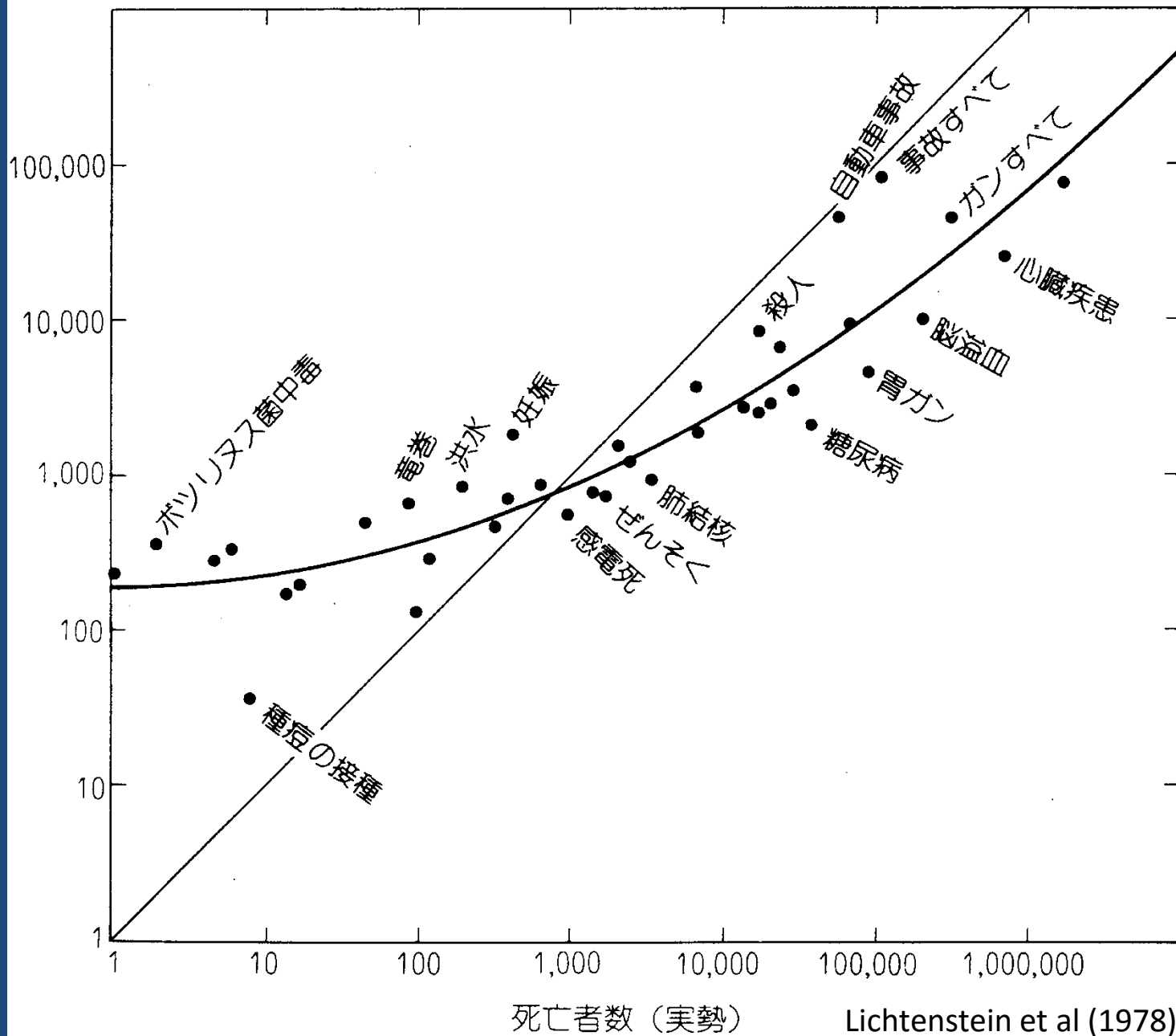
扱う内容

- 人々はリスクをどのように感じているか？
- リスクを管理するために、コミュニケーションがなぜ必要とされているか？
- 関係者間の信用がなぜ重要となっているか？
- 求められるスタイルと期待される効果
- コミュニケーションを進めるうえでの、いくつかの留意点

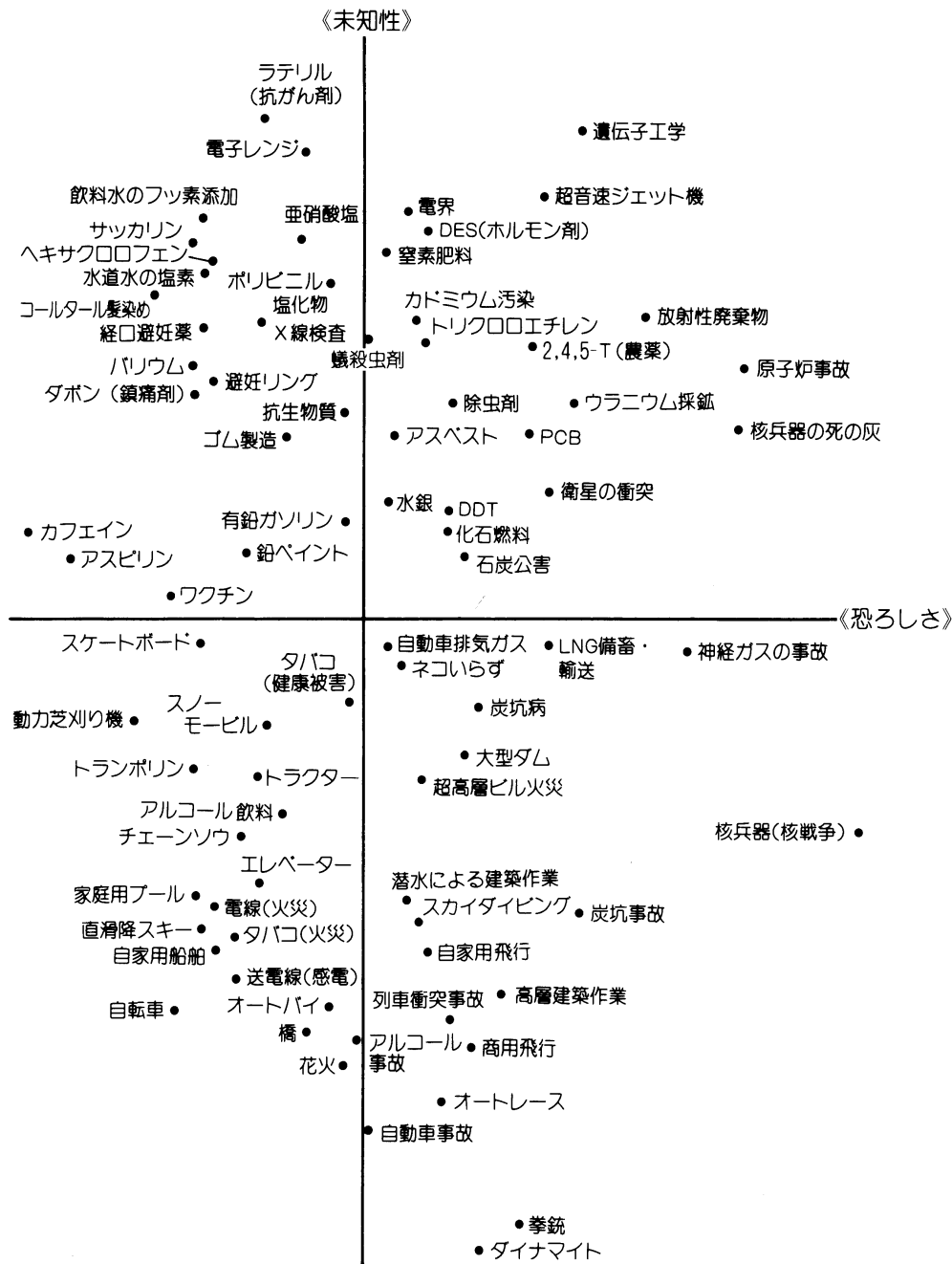
人々はリスクをどのように感じているか？

- リスクの大きさを正しく理解しているか。
 - 数字のうえでは小さいのに、大きく感じる。
 - 逆に数字のうえでは大きいのに、小さく感じる。
- 同じような大きさのリスクでも、感じ方が異なる場合があるか。
 - 頻度は多くないが、発生すると大きな影響
 - 原因や構造がよくわからない出来事

死亡数(アンケート調査の結果)



年間死亡者数の理解に関するアンケート調査



アメリカ人のリスク認知地図 (Slovic, 1986)

リスク認知の事例

リスクへの関心を左右する要因(NRC,1989)

要因	公衆の関心が高い	公衆の関心が高い
原因	人間の行為や過失	自然現象や不可抗力
メカニズム	理解不能	理解可能
個人の制御可能性	不能	可能
曝露の原因	非自発的	自発的
可逆性	影響は不可逆的	影響は可逆的
子供への影響	特にリスクあり	特にリスクなし
被害者の身元	確認可能	困難(統計上の数値)
大災害による死傷	同時的、同一地域	時間や場所が分散
責任当局への信頼	高い	低い
報道機関の注目度	高い	低い
リスク/便益の公平さ	不公平な分布	公平な分布
便益	不明確	明確

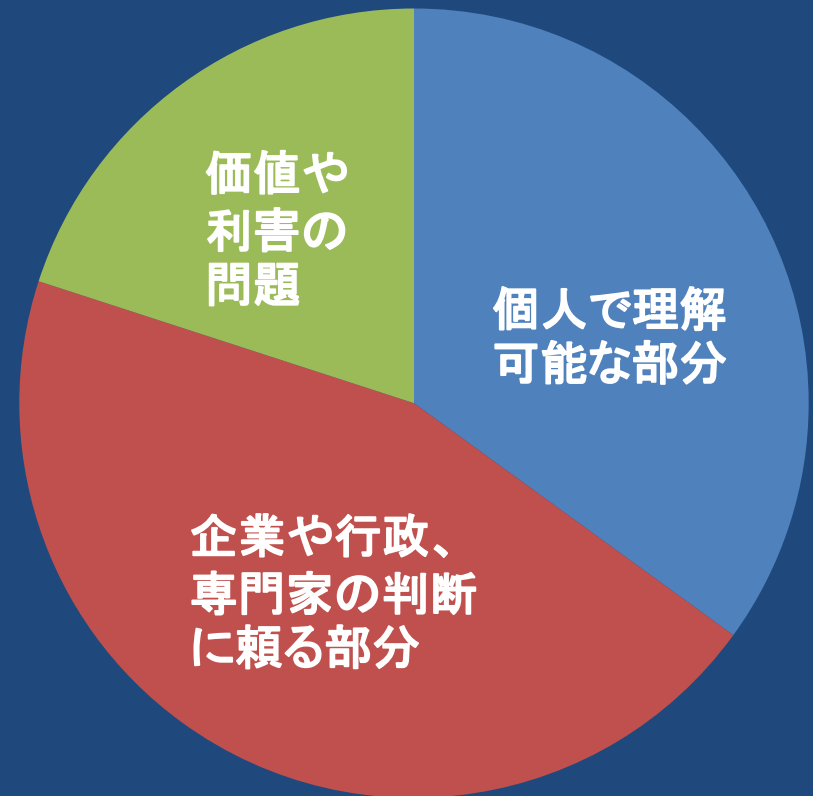
リスクを管理するために、なぜコミュニケーションが必要とされているか？

- 知識の度合いによる誤解
 - 出来事の確率的な発生
 - 統計情報や有害性情報の不確実性
- 関心の違いや利害関係による対立
 - リスクの特性による人々の関心の違い
 - 個別施設との利害関係

コミュニケーションを進めるうえで、関係者の中の信用がなぜ重要となっているか？

- 全ての情報を個人レベルで収集し、理解することの難しさ
- 企業や行政、専門家が独自に持っている知識や経験に基づいて判断することでの確かな決定、時間節約

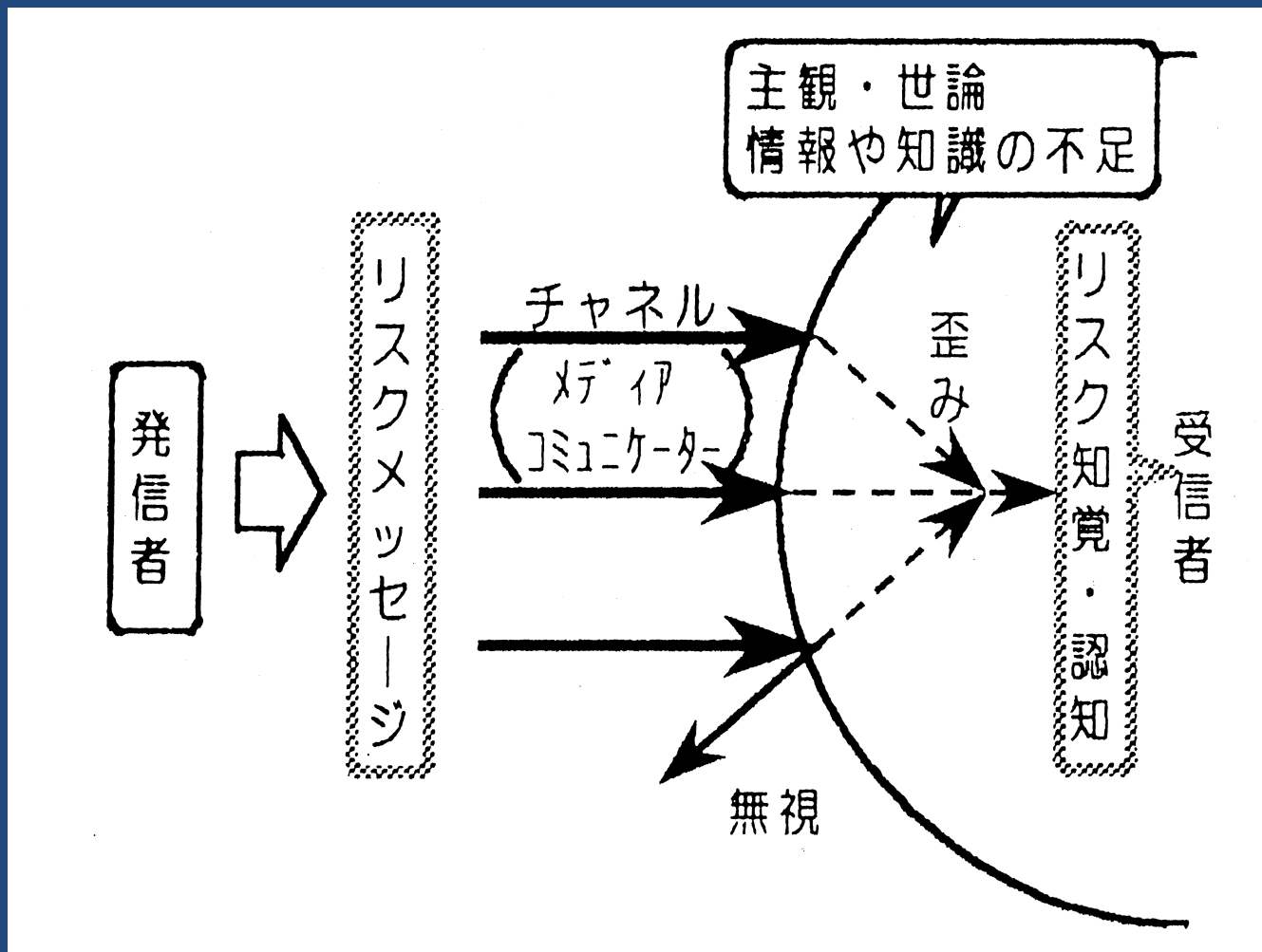
⇒十分な信頼関係が前提



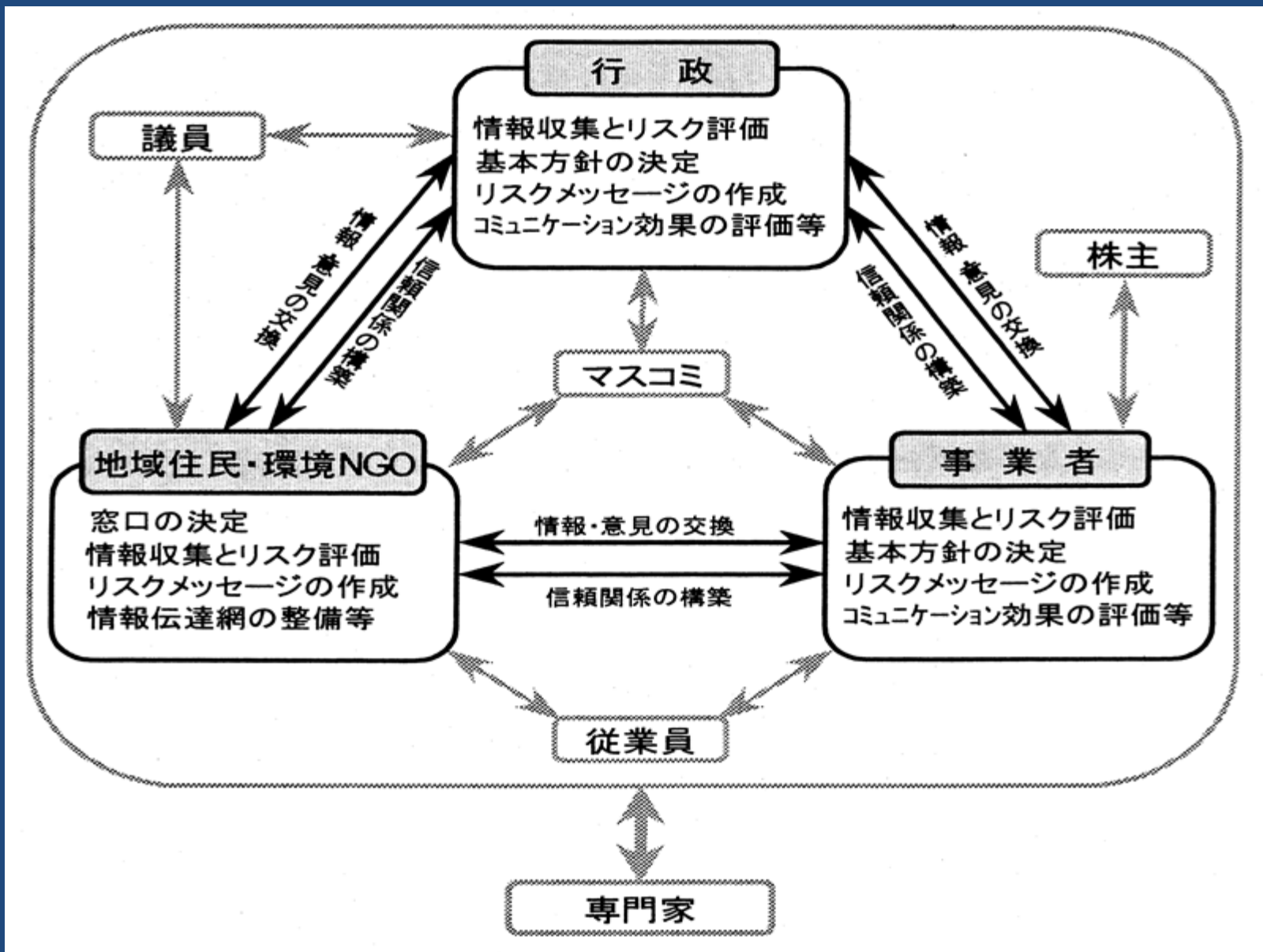
リスク判断のための要素配分例

リスクコミュニケーションに求められるもの (OECD ワークショップから)

- Good Institutional Performance
(良好なリスク対応策)
- Tailor communication according to the needs of the targeted audience
(関係者のニーズに応じたコミュニケーション)
- Link risk messages to events
(リスク関連の情報と行動とのリンク)
- Be honest, complete, responsive
(誠実、完全、応答的な対応)
- Use multiple channels of communication
(複数のチャンネルの利用)



ひと昔前のコミュニケーションスタイル (北米：1985～1994)



これからのコミュニケーションのあり方

コミュニケーションに期待される効果

① 有害物質や対策に関連した情報提供

- － 物質の(物理化学的)特性、有害性など
- － 対策の内容
 - ・ 解体工事の内容
 - ・ 飛散防止対策 など

② 関係者の見解の共有

- － 提供された情報の理解
- － 関係者の関心
- － 現場独自の視点からみた新たな情報

③ よりよい取り組みに向けた合意形成

- － 当面の目標
- － 個別課題への取り組み
- － それぞれの役割

→(繰り返しの)実施による信頼の醸成

→将来、万が一問題が生じた場合の情報共有・意見交換のためのチャンネルの生成

コミュニケーションを進めるうえでの いくつかの留意点

- 地域特性の理解の重要性
 - 現場の土地利用特性
 - 周辺住民の社会的特性
 - アスベストあるいは他の有害物質の問題に関するこれまでの地域の関わりや経緯
- 通常時とモードが異なる事故発生時の対応
 - 初動時の大切さ
 - 利害関係者との調整の場の設定
 - 第三者の関わり